

日本クリスチャン・アシュラム連盟

春季号

開 心
静 聴
充 満
献 身
奉 仕

日本アシュラム

Spring 1981

United Christian Ashrams of Japan

35



この御国の全容を見ましよう。(マタイ二四章一四節)『御国の福音は世の終りまでに全世界に宣べ伝えられる』のです。

宣教の時(第二回講説) 神の国とその義を求めよ

D・P・タイタス師

この世には多くの王国があります。最も大きなものはローマ帝国、ギリシャ帝国、大英帝国などでした。聖書は全宇宙を支配する王国について述べています。地上の王国で全世界を包括したものは一つもありません。神の国は全宇宙を支配するものです。詩篇一四五篇十一、十三節にある通り、神の国は栄光に満ち、神の全能の御力が働き、光栄に輝く明るい永遠の国、その支配は万世不滅であります。唯一の神が唯一の計画をもって世界を造り、支配しておられます。神には初めも終りもないように、神の国にも初めや終りがありません。神に誤りがないように御国に誤りは起りません。

福音とは神の国の福音で、教会のそれではなく、聖書は御国の言であって、教会の言ではありません。主イエスは出て行って御国の福音を宣教され、『まず神の国とその義を求めよ』と言われました。これは職業や結婚生活以上に大切なことだからです。洗礼者ヨハネも『悔改めよ、神の国は近づいた』と叫び、十二弟子も七十人弟子も、この福音を伝えました。主の祈りの中には『御国を来らせ給え』とあり、『教会の支配を』とはありません。福音書には主イエスの例話が三十六ものついでついでです。恐らく百以上も話されたと思えますが、この三十六話の大部分が神の国に関するものです。種まき、魚とりの網、宴会に人々を招く主人などの例を挙げて、御国の様子を示しています。主と共に十字架についた強盗の一人も、『主よ、御国にて我を覚え給え』と祈っています。

ロマ書十四章十七節でしよう。『神の国は飲食ではなく、義と平和と、聖霊における喜びとである』。主イエスも『神の国とその義』とを結合され、主の祈には『御国と御心』とを連結しています。御国の性格について、スタンレー・ジョーンズは多くの著作の中で詳細に注意深い選語を以て述べています。まず神の国の絶対性です。この世に絶対的なものは何一つないが、神のみ絶対者であり、その御国である故に絶対的で、終りなき国、最も正しい決定のなされる私たちの服従すべき国であります。裁判所も教会も誤つことがあるが、この国は誤りなき永遠の国であります。

ある信者はよく神の国を建設しようとか拡張しようとか言うが、余りに軽薄な考えであります。有限な人間が永遠の御国を作ることにはできません。御国が私たちを迎え入れて造り変えるのです。次に御国は不変です。世の王国は興亡甚だしいものです。神は不変だからその国も不変です。私たちは御国の法則にそむくことができると思っているが、それは不変であって、反対に私たちがそれによって裁かれているのです。

更に神の国は全体主義です。世の国々もそれを目指し、ローマ帝国、共産主義の諸国などが生れましたが人間が全体的権力を持つと非常に危険です。人間は不完全、無責任、誤り易い者だからです。神には問題がありません。御心は常に正しく完全ですから、神の支配は全体に及びます。

りであって、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。

発行人 大石 剛 郎
定価 一部 50円 平 50円

御国の王は誰か、王にも種々あるが、主イエスの他に真の主はありません。彼は平和の君、ソロモンにもまさる王です。この王には総理や大臣がいまません。牧師は教会の権威によって按手を受け、教会の責任を負ってはいませんが、王に何かを建言できる大臣ではありません。牧師も王イエスには服従するのみです。神の国は民主主義ではなく、協議したり投票によって議決しません。民主制では多数決で正誤に関係なく決定されますが、御国においては一切が神の御心によって決定し運営されます。

御国の王妃は誰か、聖書は教会をキリストの花嫁と称しています。教会は完全ではないが、主の唯一の配偶者として選ばれ、大きな使命を与えられています。神の国と教会との関係はどうか。御国は絶対で、教会は相対的なものですが、御国に属している故に常に正しくされているものです。御国は永遠で不変ですが、教会には興亡があります。黙示録にあった七つの教会は今日一つも存在していません。インドや中国に伝道したネストリアン派(景教)の教会も現在は一つもありません。神の国は不滅だが、教会は変化の歴史の中にあります。神の国は私たちに悔改めを迫るが、教会はそれに従って行くものであります。神の国が福音を持ち来らせ、教会はそれを世に運ぶ使命を託されているのです。神の国は贖罪を宣教し、教会はそれを受入れる立場にあります。この事は教会がキリストの花嫁であって他にライバルはないことを意味

します。アシュラムの参加者は種々の教会に属しているが、それらに対して忠誠を尽し、愛し、新生命に復活して、神の祝福を受けることを願っています。アシュラムにおいて真のコイノニヤを経験するが、それを各自の教会においても守られることを祈るものです。教会は神の国ではなく、それに従って生きるものです。教会には委員会や諸集会が持たれるが、そこでの話し合いが最終的決定ではなく、御国の王なるお方の御心に従うことを求めるべきです。教派の発生には理由があったが、それが最後のではなく、聖徒の交わりが真実に正しく守られる御国を望んで向うべきであります。教会で選挙も行われるが、真の選びは神の国によるので、義と平和と聖霊における喜びに従うべきものです。最後に一言、教会が神の国に従うように、一人一人の生活も神の国の支配を受くべきです。御国に入って生き、歩み、行動する時、その強い土台の上に立って動揺することはありません。然しもし神の国を心にとめないなら、勝手な生活を送ることとなり、御国から離れ、破れて行きます。自分の欲望や喜びでなく、義と平和と聖霊による喜びを求めるべきです。主イエスは言われました。「天地は過ぎ行く。然し私の言は不滅である」と。(マタイ二四・三五)多くの人々は(名)のみの信者も)それを知らず、過ぎ行く国に属しています。「悔改めて御国の福音を信ぜよ」と言われたのはそのためです。

神の国の全容が幾らか判明したなら私たちはいかに対応すべきでしょうか。少しばかりの献金や物品、息子や娘を捧げても、それらは元来神のものであって、私が捧げたことにはなりません。唯一の方法は私自身を捧げることです。これが最後の捧げ物です。皆さん自身の全てを御国のために明渡すことです。これがサレンターです。

私は二五歳の時に突如、神に打たれ、全く砕かれ、一切を明渡す他はありませんでした。それから四二年、神の真実は不変で、サレンターを深めて下さっています。「神の国は義と平和と聖霊による喜び」であります。(祈り)

アシュラム発祥の地
サト・タルを訪ねて(二)
海老沢 宣道

第四回国際アシュラム

二日目の朝六時、起床の合図が本館のベランダで木板を叩いて知らされる。やがてあちこちの小屋から朝もやの中を通過して岡の上にある八角の聖堂に集まってくる。七時から静聴の時をマシューズ師の司会で使徒行伝一章により御声を聴き分ち合いをした。聖堂内は正面に十字架と主イエスの聖画が飾られた簡単な壇があるだけで、洋式の椅子はなく、一同は靴をぬいで床の上に坐り、司会者もインド服装で坐ったまま指導していた。数名

好評

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価300円 千60円

アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョーンズ博士の直伝を受けた著者が、平易に解説し今回小冊子にまとめられた。参考書として活用されたい。

日本アシュラム編集部

177 東京都練馬区三原台1-18-1 海老沢方

の祈りが捧げられた後、二列に並び、アシュラム行進歌を唱和しながら坂を下りて食堂へ向う。緑の林の中を歩み乍ら、昨夜タイタス師が申命記四ノ七を引照したように神の御臨在を強く感じた。朝食の卓主はマシューズ師、全期間を通じて彼が卓主をつとめ、食前の歌、祈り、食後に今日の予定、その他の連絡事項、注意などを伝え、食後の歌を指導された。九時から岡の上の聖堂で開心の時がワグナー師の司会で初まる。ヒリビ書一ノ二一によりイエスを主として生きまた死ぬ決心を促がされた。コーヒータムは食堂で各国(南北米二三名、インド一五名、日本七名)の人々が自由に語り合う楽しい時である。十時半から伝道の時、インドのマシューズ師の説教はヨハネ三

マ書十章九節

アシュラムの五大原則
(一) キリストへの明渡し
(二) 御書への静聴と立証

章の十三、十四を中心に、聖霊(命の水)を受けよとの力強いメッセージであった。十一時半、祈りの細胞は聖堂で引き続き四分団に別れて守られたが、その前にパーグ師により全体に対する勧めが、ピリピ書四章四一七により与えられたのは良かった。中食とファミリーの時が再び食堂でマシューズ師の司会で進められた。

中食後は毎日一時間半ほど沈黙の時があり二時半から教会活動の時、タイタス師がインドの諸宗教とキリスト教会の活動につき講話、インド服で聖壇の前に低い台を置いて坐ったまま語られる姿は昔の寺小屋を想い合われる。マシューズ師の案内でサトタルの野山、湖畔を散歩し、五時から夕拝を守る。夕食後、同じ食堂の一隅にステージがあり幾つかのさんび歌のあと、四分団により「スタンレーの生涯」についての寸劇(スキットとあるので茶番劇)が即興的に、いろいろなジョーンズ博士を演出されてお互に笑いの中にも創始者の面影を偲ぶ。九時から晩禱、パーグ師の司会で守り、十時、懐中電灯を頼りに各自の宿舎に帰って就寝した。今回は夜の連鎖祈禱はなかったが、参加者は随時、岡に上り、チャペルに入り、湖畔に下りて御言に聴き、祈りの時を持っていた。(以下次号)

第五回城西アシユラム(予告)

本年の城西アシユラムは来る九月二三日秋分の日、大宮前教会にて開かれます。申込書希望の方は満丸師〇三(三三三三)四〇七七もしくは湖江師〇四二二(三二二)一一二七九へお問合せ下さい。

二十五年記念の感謝

関西地区長 中路 嶋雄

すばらしいアシユラムであった。苦悩の中から慰めに満ちて立上がられた友。『うき世だにさながらあまつ世の心地す』の平安を、明け渡すことによつて得られた仲間。十分と祈ることのできない者にも連鎖祈禱で夜半の長い祈りに驚く力を受けた喜びは大きい。また受洗に導かれた者、献身の決意をした者など、多くの恵まれた人、人を見ることができた。感謝である。愈々スタンレー・ジョーンズ博士が遣してくれた、このアシユラムを盛にしなければならぬと思う。これこそ善い信徒作りの道である。本当に有難う感謝に耐えない。

第一回札幌アシユラム

委員長 加藤 享

主の御名を讃美します。お祈りを頂きまた種々の御連絡感識申し上げます。アシユラムの実際を余りよく知らない者同志なのでご提示下さったプログラム案をもとに、小冊子を共に学びながら計画を立て、定員を三十名に絞り、いわば手探りで試みた集会でしたが、参加者はタイタス師、大石師を含めて三十六名となりました。祈りの細胞、夜の連鎖祈禱、自ら参加したプログラム、また深く祈った経験などが好評で、よかった、来年もや

ろう」ということになりました。生れおきた子が、どのように成長するか、先輩各地区のご支援をお願い致します。

札幌アシユラムに参加して

前田 花恵

二四時間、祈りの中で三六人の同信の方達と共に過し、信仰もて生きる幸せを感識し、主の良き僕として歩む導きを頂きました。アシユラムはインドの修業方式で、これをキリスト教の新しい祈りの生活に取入れたのはスタンレー・ジョーンズ博士です。今、博士のお墓がインドを象徴するハスの花の中に十字架を型どつて建てられていることを聞き感識しました。インドでは十数名が三週間も続けずばらしい交わりの中から霊的に新しくされるそうです。

二九年間アシユラムをして来られたタイタス師を迎え、開心の時、祈りの細胞夜の連鎖祈禱と次々に「イエスは主である」ことを信じていくことができました。初めて逢った人々にも心を開くことができ魂の必要を語り、祈り合いがされ、改めて開心の大きさを知る事ができました。福音の時には神の国が絶対であり、全体的に揺ぎなく、誤りもなく永遠であることを学び、全てを神に明け渡すことがアシユラムの精神であることを教えて頂きました。夜九時からの連鎖の祈りには自分で決めた時間に祈禱室に行き、一時間、二時間と祈ります。初めは長い祈りの時間であると思いましたが、人の名前をあげて祈るうちに、時間がほんとに

(ピリピ書 第二章 十一節)

(三) 聖霊の啓導と充満
(四) 神の国の体験と献身
(五) 教会への奉仕と伝道

短かく、主の御霊を身近に感じ満たされたい思いでいっぱいでした。
ギターの上を盲人青年は聖書の言葉を歌にして伝道しているという証しもありました。この喜びと感謝、学んだことをどのように伝道と奉仕に生かすべきか主に祈るものです。

第十一回城北アシユラム

江古田教会にて

日本アシユラム二十五年記念でインドから来援のタイタス師は、札幌を終了して帰京、去る十一月三十日(日)午前には海老沢牧師宅に一泊の後、江古田教会の朝礼拜で「かえさない菓子」と題して、ホセア書七ノ八以下により説教され、午後一時から近隣の天門、更生、池上、東京中央から各数名の出席を迎え、三六名でミニ・アシユラムを守った。黙想、開心(松田)静聴(島)福音の時(タイタス)充滿(有馬)の順で夕五時には全員大いなる恵みを受けることができました。タイタス師の説教はマルコ八章三四以下により「グルと弟子道」と題して、主に従う者の心得を親切に教示され、一同深い感銘を受け、日本最後の集会を感識した。

第十二回城北アシユラム

更生教会に七名参加

過去一年間五教会の有志が祈り続けてきた結果、恒例の二月十一日(水)午前九時半から新築成った美しい更生教会で開かれた第十二回城北アシユラムには主催五教会は勿論十七教会から七十名の参加

加があつて、まず開会礼拝は島隆三師が歴代下七章一四により主題「わが顔を求めよ」につき説教、開心の時は神山師が「ヨエル書二ノ二三により、心をさいて主に帰れ」と勧められた。中食フアミリーの時は更生教会婦人会の勤待を受け、午後一時から静聴の時は松田師の司会でヨハネ第一書一章を黙想、恵みの時は小金井から湖江淳一師を招き、「キリストの顔に輝く神の栄光」を教示され「クリント第二書四章」祈りの細胞(六分団)で各自のニードを告白、祈りの互助をした。最後の充滿と献身の時は海老沢師の指導で詩篇八〇篇の祈りを常に祈ることを勧められ、一同さんびのうちに御霊の満たしときよめを受け、キリストと教会に仕える決意を強められて、感謝もて散会した。

開会后、保育室で昨年五十年を迎えたインド・アシュラム参加のスライドと八ミリ映画を有志が観賞した。当日の会費と献金は十二万円、諸経費六万五千元、残高から日本連盟と関東地区へ各二万円を献金、残金は来る一年間の準備祈禱会に当てることとなった。

三月十五日(日)午後新築完成の新宿西教会で、次年度第一回祈禱会を開き、今年も隔月に連合準備祈禱会を左の順で守ることとなった。五月池の上、七月更生、九月東京中央、十一月天門、一月新宿西(第十三回開催予定教会)。

▼尚、ミニアシュラムが扇町教会で一月十八日に、竹見台教会で同二五日、西川口教会で二月十一日開かれたが詳報未着。

▼アシュラムとは故ス
取り入れて創始され

ト教の新しい祈禱生活のことである。

日本アシュラム二五年記念 感謝献金報告

昨十一月日本アシュラム二五年記念聖会を開催した際には献金目標を一五〇万として祈っていましたが、全国同志の御協力により、一六二万余を捧げられ全てを満された上に、連盟の活動をも大いに助けて頂くことができ感謝に耐えませんがここに最後の報告を記して心からの御礼を申し上げます。

総務理事 大石 嗣 郎

但し前号(三四号)報告中、深谷教会の献金額は十万円であり、文末の合計高は金一五八三、五八一円が正確でした。更にその後五名の追加がありました。

▼一万円、天門教会、神山きえ、碑文谷教会、大石嗣郎(四口)

▼一千元、君村千代子(一口)

以上総合計一、六二四、五八一円

〓二五年記念決算報告

収入の部	
参加費	一、二二六、一一〇円
特別献金	一、六二四、五八一円
合計	二、八五〇、六九二円
支出の部	
宿泊食事代	一、〇九三、九〇〇円
タイタス師関係	七五四、〇九〇円
サトタル献金	一〇〇、〇〇〇円
準備委員会費	二二二、〇五〇円
広告、宣伝費	一四七、〇〇〇円
諸雑費	二一、六〇〇円

〓連盟経常会計決算報告

収入の部	
各地区委分担金	一〇〇、〇〇〇円
有志賛助金(十三名)	一三四、〇〇〇円
広告料収入	三〇、〇〇〇円
二五年記念残高	五二二、〇五一円
収入合計	七八六、〇五一円
支出の部	
機関紙印刷代	二〇二、九二〇円
通信費	三三、四四六円
理事会議費	二六七、五〇〇円
広告宣伝費	一八、二〇〇円
見舞金	六、五〇〇円
前年度不足分	二六、三九五円
支出合計	六八一、九六一円
次年度繰越	一〇四、〇九〇円
総計	七八六、〇五一円

(一九八一年三月末現在)

〓アシュラム協力献金

昨年度は二五年記念へ御協力を願いましたので、連盟の運動費への献金は地区の分担金、個人有志賛助とも振いませんでした。新年度の経常費には各方面の御協力をぜひお願いいたします。

- ▼分担金。関東地区(79、80年分)
- ▼賛助金。中路鳴雄、林勝義(各二万)
- 齊藤かおる、谷本清、白川鄭二、内村サムエル、村上東、湖江淳一、山根可式、海老沢宣道、大石嗣郎(各一万)

鈴木かよ、黒沼栄一(各二千元)
▼広告代。林勝義、中路鳴雄、湖江淳一(各一万) 以上(八〇年度分)

〓連盟賛助の祈り

関東アシュラム(81年度)五万円
城北アシュラム(リ) 二万円
江古田教会クリスマス 八千円
大石嗣郎、海老沢宣道(各一万円)
(以上) 新年度に入ってから御献金を感謝を以て拝受いたしました。

D・P・タイタス著
英文『神の国を
来らせ給え』

B6判本文三四頁 価百円下別
申込先 日本アシュラム連盟事務局

土木建築設計施工
土地分譲建売住宅
土地付注文建築全般

丸留建設株式会社
取締役社長 鈴木留蔵

本社 (274) 千葉県船橋市前原西2-29-14
TEL 0474 (74) 1251~2
支店 (275) 千葉県習志野市実柵町3-13
TEL 0474 (72) 2630

東京都目黒区中央町1-21-10
碑文谷教会気付

日本クリスチャン・アシュラム連盟
事務局 東京都目黒区中央町1-21-10